

自 己 評 価 書

(令和5年度)

令和6年2月

鳴門教育大学附属幼稚園

目 次

I	学校の現況及び目的	1
II	評価項目ごとの自己評価	2
1.	教育課程・指導	2
2.	保健安全管理	1 1
3.	組織運営	1 5
4.	研究と研修	1 9
5.	教育環境整備	2 3
6.	教育実習	2 5
III	自己評価別添根拠資料一覧	3 1

I 学校の現況及び目的

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属幼稚園
- (2) 所在地 徳島市南前川町2丁目11番地の1
- (3) 学級等の構成
3歳児1学級、4歳児2学級、5歳児2学級
保育課程 2年保育、3年保育
- (4) 幼児数及び教員数(令和5年5月1日)
幼児数130人 教員数7人(正規教員)

2 目的

(1) 目的・使命

本園の目的は、附属幼稚園園則第1条において「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する」と定めるとともに、同条第2項では「幼児期の教育に関する各般の問題につき、保護者及び地域住民その他関係者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うなど、家庭及び地域における幼児期の教育の支援に努める」と定めている。

また、園則第1条には「鳴門教育大学における幼児の保育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には教員養成大学の附属幼稚園として、次のような使命をもった幼稚園でもある。

- ①大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学的研究を行う研究幼稚園としての使命
- ②地域の教育課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

(2) 教育目標

本園は、園則第1条に示されている幼稚園教育の目的の達成のため、次のような教育目標を掲げている。

- ①自主・自立・創造・感謝の精神の芽生えを養うこと。
- ②健康でたくましい心身を養うこと。
- ③それぞれのよさや違いを認め、育ち合う感性を養うこと。
- ④身近な環境に対する興味や思考力の芽生えを養うこと。

⑤喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養うこと。

⑥創作的表現に対する興味や豊かな感性を養うこと。

(3) めざす子ども像

本園は、教育目標に基づき、次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

- たくましい子ども
- しなやかな子ども
- 育ちあう子ども

(4) 令和5年度重点目標

鳴門教育大学・附属学校との連携をさらに密にし、中期目標・中期計画・本年度計画等の実現に努めながら、次の3点から教育目標の具現化を図る。

- ①幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育の具現化を図る。
- ②「遊誘財」研究の成果を生かし、現代的な教育課題に係る研究・実践を推進する。
- ③大学、教育委員会との共同研究・研修を推進する。

(5) 評価項目

①教育課程・指導

- ・幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況
- ・科学的思考を促す幼小接続の生活プラン（教育課程・指導計画）作成に関する取り組み状況

②保健安全管理

- ・保健計画の作成・実施の状況、園の環境衛生の管理状況
- ・危機管理対策の見直しと強化

③組織運営

- ・園務分掌や主任制度が適切に機能するなど、園の明確な運営・責任体制の整備の状況

④研究と研修

- ・幼児教育研究と園内外における研修の実施及び地域への貢献状況
- ・教育委員会並びに幼児教育関係者への研修支援等の状況
- ・地域住民への貢献

⑤教育環境整備

- ・設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況

⑥教育実習

- ・専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

Ⅱ 評価項目ごとの自己評価

評価項目 1 教育課程・指導

(1) 観点ごとの分析

観点 1－1 幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況

【観点到係る状況】

本園では、幼稚園教育要領に基づく指導内容・方法を明確にし、本園の伝統や特性を生かした教育課程・指導計画である「生活プラン」による保育を進めている。

本園の保育理念である「子どもと創る保育」は、環境を通して子どもが主体的にかかわろうとする過程において子どもはよく考え、真剣に物事に向き合い、状況や雰囲気をつよみながら感性を十分に働かせる。その経験そのものが学びであるとしている。それを可能にするためには、保育者の基本姿勢が重要であり、読めば納得であるが具現化に至るには非常に困難をきたす。そこを追求できずに、「指導」に流れてしまうことが多い。保育者の幼児の幼児理解の部分であり、まさに信じることができそうでできないのが状況である。保育者の基本姿勢を何度も読み返し、研究テーマにも据え、「信じる」ということはどういうことなのかを、実践の中で各保育者が追求していった。この観点をもちつことにより、子どもの内面や思考の読み取りが深まり、それが深まる程、「遊誘財」や一貫型教育プランの「幼小連携の科学的思考力涵養のプログラム」が遊びの中で展開される総合的な学びであることが理解される。

また、新型コロナウイルス感染症が5類に移行となり4年ぶりに通常教育課程の実施が可能となった。絵本の部屋やおやつの部屋が復活し、園全体が存分に生活できる場となり環境をとって行う教育や幼児の主体性を大切にしたい保育が展開されている。

【分析結果と根拠理由】

「生活プラン」の月別指導計画シートを作成し、各担任・担当が毎月これを活用し、指導計画の具体化を図っている。それを持ち寄り、全体打ち合わせと指導の評価を実施し、カリキュラムマネジメントを行った。コロナ禍では、教育課程の実施が非常に困難な内容もあり、それらを考慮した上で日々の保育を進めていた。いざ、コロナが5類に移行し、教育課程が充分に実施できる状態になったとき、「環境を通して行う教育」や「遊びを通して行う総合的な指導」「幼児の発達に即した指導」の在り方が問われることとなった。毎月の指導計画の具体化シートを持ち寄っての職員の共通理解や子どもの姿をどう捉えるかなど話し合いをしながら、日々の保育が質をともなっていくように保育の計画や見直しを細かく実施した。

合同研究会では、「子どもを信じるとは」について、事例を通して議論を繰り返した。実際の保育の中も、その問いをもちながら日々の保育を進めている。

令和5年5月に、新型コロナウイルス感染症が5類に移行となり4年ぶりに通常教育課程の実施が可能となった。絵本の部屋やおやつの部屋が再開し、園全体が存分に生活できる場となり環境をとって行う教育や幼児の主体性を大切にしたい保育が展開されており、生活が豊かに動いていることが保育者にも実感でき、豊かさや子どもの主体性をいかした日々の積み重ねが、幼児の成長発達につながっていくことも子どもの実際の姿から掴みとっている。それは今年度の保育参観者の多さやアンケートにもあらわれている。

令和5年度附属幼稚園オープンスクール（来園者：238人・アンケート回答者：104名）のアンケート集計結果によると、本園の保育については99%の保護者が「とてもよい」と評価している。

幼児理解と環境の構成、教師の専門性については、「子どもの自主性を引き出して頂いている。子どもの表情が生き生きしている。」「先生方ご自身が模範となり、またどこまでも肯定的に接して下さる姿に親としても多くの事を学びます。」「普段、園の行事に参加できない父親が保育の様子を見て、先生達の保育の仕方が計算し尽くされているように見えて感心した、と言っていました。安心してお任せできると思います。」「園児は好きな遊びに思いっきりのもり込める環境が整えられていて、今の時期にしか出来ない遊びや学びがしっかりできて素晴らしいと思います。」という評価がされており、実際の保育を観た保護者が自主性や環境へのかかわり、教師の専門性を読み取ることができている。

集団活動・協調性・生活習慣形成についても、「子どもたちは自主的に遊びを見つけ、集中して取り組んでいる様子を見ることができました。至るところに仕掛けられていて、先生の日も行き届いているように感じました。子どもが自ら考えて遊んでいるところ、片付けなども自主的に子ども達だけで行っており驚きました。」「子どもの成長はもちろんですが、園での活動や保護者同士・園児との関わりの中で私自身も成長させてもらっています。」「園舎自体は新しくはないが掃除が行き届いていると思った。」「園庭には四季折々の花や野菜が植えられていて園児は常に自然を感じることができて素晴らしいと思います。屋上のスペースを活用したり、活動内容によっては隣接する小学校のグラウンドを利用して実際より広く感じられました。」「園児がしっかりと目的をもって、思い思いの遊びに夢中になれる環境が整っていると感じました。園内の至る所に園児たち手書きの案内や注意書きの看板があり、温かみを感じました。」と評価された。

このような、本園の教育への理解には、これまでの伝統と継承され続ける教育課程、その教育課程についての研究を行っていることが大きな要因であると考えられる。これらの基本の部分をもって実際の保育から感じられたり観えたりしたことが、教育課程の実施の有効性や幼稚園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導が実施できているという評価につながっている。

令和5年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果（一部抜粋）【別添資料1-①】

実施日 令和4年11月3日（木）

対象 オープンスクール参観者 保護者 238名（アンケート回答者 104名）

内容 1 保育について 3段階評価及び自由記述
2 環境整備について 3段階評価及び自由記述
3 その他感想・意見 自由記述

アンケート集計結果	
○保育について	
・とてもよい	103名（99.0%）
・あまりよくない	0名（0.0%）
・どちらでもない	1名（1.0%）
・記入なし	0名（0.0%）
○環境整備について	

・よく整っている	98名（94.0％）
・もっと整えて欲しい	1名（1.0％）
・どちらでもない	5名（5.0％）
・記入なし	0名（0.0％）

保育について自由記述の概要

【子どもたちの様子】

★子どもが生き生き・のびのび・楽しく

- 子どもがやりたいことを自由にのびのびと取り組むことができている。
- 自由にのびのびとさせている。工夫された遊び場がたくさんある。
- 子どもに何子どもが自分の好きな事やしたい事に時間をかけてじっくり（集中して）取り組んでいる姿を見る事ができた。
- 子どもの自主性を引き出して頂いている。子どもの表情が生き生きしている。

★自主性・主体性・遊びを大切に

- 子どもたちは自主的に遊びを見つけ、集中して取り組んでいる様子を見ることができました。至るところに仕掛けられていて、先生の目も行き届いているように感じました。子どもが自ら考えて遊んでいるところ、片付けなども自主的に子ども達だけで行っており驚きました。
- 子ども達がのびのびとしており、その中で、自立面等は自ら取り組めるような配慮と声かけをしてくれている。
- 子ども達が自分で考え、動ける体制が整っている。

【幼稚園・教師について】

★教育方針・指導理念

- 子どものやってみたいと思った遊びをとことんさせてもらえることで、その中から自由な発想が生まれ、さらに楽しい遊びへと進化していっていました。自ら進んで遊びながら、学んでいるのを感じました。
- 子どもがイキイキと活動しており、子どもが自由に活動できるよう見守る体制が工夫されていると感じた。
- それぞれの組において、一人一人がやりたい事が思う存分にできる環境を整えられているのが素晴らしいかった。子どもの自己肯定感が最大限に引き出される言葉かけによる支援が行われていることに感謝しかありません。日々ありがとうございます。
- 先生が目配りも凄いですし、子どもがのびのびしていて、ただ自由だけでなくメリハリが効いていると思いました。

★季節感や自然を大切にした保育展開

- 園児は好きな遊びに思いっきりのめり込める環境が整えられていて、今の時期にしか出来ない遊びや学びがしっかりできて素晴らしいと思います。
- 生き生きとした植物に目を奪われました。
- 屋内外遊びのための遊具や施設が豊富に揃えられており、また、四季を感じられる植物が所々に配置されていることから。
- 家では見ることでできない野菜や花、生き物が綺麗に管理されており、子どもが新しい知識を身につける環境が整っていると思います。

★教師の姿勢・指導力

- いつもお世話になっております。子ども達が保育時間内にそれぞれが考えた遊びをめいっぱい楽しんでいる様子が印象的でした。先生方の声掛けについても励ましも注意される際も常にポジティブに子ども達が自分達で選択できるように促しておられ、親としてもかなり日々の接し方に刺激になりました。
- 先生方も全力で子どもに接して下さり皆がとても楽しそうに幼稚園生活を送っている。
- 子どもの好奇心を最大限引き出してくれていると感じた
- 先生方ご自身が模範となり、またどこまでも肯定的に接して下さる姿に親としても多くの事を学びます。
- 一人ひとりの個性を見抜いて、そっと背中を押して下さる先生方のお声がけの上手さや愛情を感じます。
- 普段、園の行事に参加できない父親が保育の様子を見て、先生達の保育の仕方が計算し尽くされているように見えて感心した、と言っていました。安心してお任せできると思います。

環境整備について自由記述の概要

★全般に整備状況

- 園庭には四季折々の花や野菜が植えられていて園児は常に自然を感じることができて素晴らしいと思います。屋上のスペースを活用したり、活動内容によっては隣接する小学校のグラウンドを利用して実際より広く感じられました。
- お花や野菜、木の窪みや、滑り台、どろんこなどもすべてワクワクするような環境で、子ども達のパラダイスだなと感じました。坂から転げ落ちそうになったりしながら身体の使い方も覚えていっているんだなと参観しながら考えておりました。
- 屋上でサッカーや一輪車ができたり、ウサギやカメの世話をしたり、花や野菜を植えたり、砂場で泥だんごを作ったり、子どもたちが好きなことをして自由に遊べて過ごせる環境が整っている。
- 敷地、設備、掲示物等、整っていると思いました。
- 校舎自体は新しくはないが掃除が行き届いていると思った。
- 庭に関して子ども達の好奇心を良い意味で刺激するような仕組みがあり、創造力を豊かにしてくれそうだと感じた。園内もとてもキレイで気持ちよかったです。

★安全管理

- 子どもが自分の意思でやりたいことをしているが、先生方が危険がないか常に見守って下さっているので安心して子どもをお預けできます。
- こども達が遊びやすいように、選びやすいように整理整頓されているから。
- 幼稚園児にさせるには難しいと思えるようなものも置いている。また、先生方が熱心
- 子ども達が生活しやすい環境ではあるが、老朽化が心配です。
- 整理整頓が行き届いていてとても清潔感があつた。
- 安全配慮がしっかりなされている。
- 園庭の広さについては仕方のないことではありますが、庭で遊んでいる子どもたちはそれぞれが好きな遊びをしています、それが他の子どもにとってその子の遊びの妨げになっている場面を何度か見かけました。

★遊具・素材・材料等

- のこぎりや釘など使いたい時にちょうどその場所に整頓され使いやすそうでした。
- 大きな学年？が釘打ちをしているのには驚いた。体験の機会が存分に与えられているように感じた。
- 遊具や遊びに使う道具、庭、畑などたくさんあり、こども達がいろいろな体験ができる環境であるから。
- 園児がしっかりとした目的をもって、思い思いの遊びに夢中になれる環境が整っていると感じました。園内の至る所に園児たち手書きの案内や注意書きの看板があり、温かみを感じました。

その他について自由記述の概要

- 附属幼稚園は保護者の負担が大きすぎます。忙しい親では無理だと思います。附属小学校に行けるというメリットがあるので受験する子はある程度いるのだと思いますが。伝統もあるのですが、ここまでする必要があるのかと思うことも多く、今の時代にはそぐわないと思っており、少しでも保護者の負担を減らす努力をしていただきたいです。
- 園設備以上に、計算されつくした保育環境を準備される先生方の力が本当に素晴らしいと思う。また、保育中は先生方が子どもの様子や気持ちをよく汲み取ってくれ、子どもが思い切り自分を表現し、認めてもらえるのが親として何より嬉しく思う。
- こどもの成長が沢山見えました。幼稚園でたくましい姿のこども達に本当に感動しました。ありがとうございました。
- 普段、自宅では見ることの出来ないたくさんの我が子の様子が見られてとても良かったです。先生やお友達と協力しながら遊具を運ぶたくましい姿や、自ら考えて遊びを作っていく様子など、附属幼稚園に通えていることに本当に感謝の気持ちがわく時間となりました。先生方の子ども達へのわかりやすく、あたたかく、前向きな接し方を拝見し、自宅でもできるだけ声掛けなども意識しようと両親で共有できたのも良い機会となりました。ありがとうございました。
- 子どもの成長はもちろんですが、園での活動や保護者同士・園児との関わりの中で私自身も成長させてもらっています。いつもありがとうございます。
- 全体的に園児が過ごしやすいように配慮し、環境を整備されている、という印象をうけた。一方で、遊具・動物小屋等、様々な設備の掃除等、職員の皆様の大変さも感じた。子ども達が良質な教育を受けられ、安全な環境で過ごせるためにも、大学や国等の関係機関には予算・人を補填し、援助を積極的に行ってほしい。
- もう少し、人がいれば良いかもしれません。
- 実習の先生もいるので、目が行き届いて安心して預けれる。子どもたちも楽しんで登園している。

- 別添資料 1－① 令和5年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
- 別添資料 1－② 令和5年度幼稚園評価アンケート結果報告書
- 別添資料 1－③ 生活プラン

観点1－2 幼小連携の科学的思考力涵養のプログラムの実施と改善に関する取り組み状況

本学の推進する幼小中一貫型教育プランの一つである、「幼小連携の科学的思考力涵養のプログラム」のもと、コロナ禍においても積極的な幼小の合同保育／授業の展開と改善がなされている。文部科学省は、幼小架け橋プログラムを推進しておりカリキュラムの作成

にとどまることのない実践を求めている。これを受け、再度幼小接続について基本を確認したり、小学校教諭への説明や情報提供を行うことで、互いの教育の理解の深まりや、幼児・児童の成長発達を繋がりが見えられよう「ねらい・内容」に実践が沿っているかどうかを確認しながら実践を行った。

また、本大学の第4期中期計画・中期目標である、附属校園が連携したSTEAM-I・C教育の推進では、幼児期の遊びの中に「どのような」学びが見えられようかを遊誘財が遊びを誘発するプロセスや幼小連携の科学的思考力涵養のプログラムを活用し、事例分析しSTEAM-I・Cの要素を洗い出している。さらに、教育県教育委員会や郡市教育委員会が実施する法定研修や基本研修、県・郡市幼児教育研究会でも、幼小連携の科学的思考力涵養のプログラムやSTEAM-I・C教育研究の、県下への普及を図っている。

【観点に係る状況】

1. 幼小連携の科学的思考力涵養プログラム

(1) 教育目標

－「育てたい力」－

- ①「わくわく　どきどき」感動する心を育てる。
- ②人間の本来的な知的喜びを、身体感覚を通して呼び覚ます。
- ③知恵のある生活（くらし）を受け継ぐ者として育てる。
 - ・地域（日本）の衣食住の様々な共有体験を豊かにする。
 - ・自然と一体化して生きていく生活を豊かにする。
 - ・生活の中の様々な問題を解決していく中で科学的思考力を身につけていく。
- ④人間を理解し関係を調整していこうとする力を育てる。

(2) プログラムの内容・方法

幼児期は事象に対する直感的感性的把握と試行錯誤の時代で、感性を構成する要素である、気づく・感じる・考える・関わる・行動するが順に意識化され、次第に高次化され、発展していく特性をもつ。事象に対する感受性（気づく、感じる）や思考性（思う、考える、創造する）が活動性（関わる、行動する）と関係しながら循環的に働き、かつ、その相互作用によってそれぞれの働きがより活発になっていく。幼小連携の科学的思考力涵養プログラムでは、以下のABCDのカテゴリーの活動を誘発し、幼児との相互作用の中でより豊かな学びを生み出していく環境、つまり、遊誘財を活用し保育展開をすることが有効である。このように展開された保育は、STEAM-I・C教育も必然的に包括している。

A. 発見と問題解決

①好奇心・試行錯誤

- 美しいものや不思議なもの、未知のものなどに驚嘆したり、関心をもってかかわったりしようとする。
- 多様なものにかかわって、周囲の子どもたちや大人にたずねたり、自分で調べたり試したりしながら、試行錯誤する過程を楽しみ、そのものの特性に気付いたりする。
- 発見した喜びを味わったり、人に伝えたりして、意欲的に表現しようとする。
- 「なぜ、どうして」などと想像したり、自分のイメージで新しいものをつくり出そうとしたりする。

②論理的に理由付けされた行動

- 季節や天候にあわせて服や道具を使いこなす。（帽子・手袋・上着・雨傘など）
- 使った遊具や用具を片付けるとき、正しい場所に置く。
- 遊びに必要なものをそれぞれの置き場所から取る。
- 最初と最後の様子や過去と現在の状態から、つながりや因果関係を考えたり予測したりする。

	○自然に触れる中で、ものの仕組みや法則に気付く。
B. 言葉への関心	
①話すこと・聞くこと	○人の話や絵本・図鑑、テレビや新聞などの情報から、自分の周りの出来事に関心をもつ。 ○うなずいたり相づちを打ったりしながら相手の話を聞き、「なるほど」と納得したりする。 ○主述をはっきりさせて自分の意見を言う。 ○出来事やものの特徴を、かかわっているものやことと結びつけながら、自分の言葉で説明する。 ○比喻や例を用いて話したり説明したりする。 ○しりとり遊びやなぞなぞ遊び、カルタ遊びを楽しむ。 ○好きな絵本がいくつかあり、その内容について意欲的に話そうとする。 ○絵本を読んだ後やその日のミーティングなど、話し合いに参加する。 ○トラブルが発生したとき、その理由を言葉で説明しようとする。
②書くこと	○書いてあることに注意を向けたり関心を示したりする。 ○自分の名前が分かり、平仮名で書ける。 ○書きたいと思い、文字や表示（ロゴ）などを見ながらまねて書く。 ○友達と一緒に、絵本や表現して遊べるものをつくったりすることを楽しむ。（手紙・看板・メニュー・標識・切符・券・名札・カードなど）
C. 数量と図形（平面・立体・空間）	
①数理的な見方や考え方や表現	○対象を比べる ・並べたり、重ねたり、入れ替えたりして、長さや大きさや強さや早さなどを比べたりしながら、ものの数（数量）を見つけ出す。 - 長いー短い（長さ）／大きいー小さい（体積）／多いー少ない（容積）／重いー軽い（重さ）／強いー弱い（強さ）／早いー遅い（時間）／速いー遅い（速さ）／冷たいー熱い（温度）など ・ものの形（図・形・空間）の違っている所（共通・相違点）に気付く。 - 長いー短い（長さ）／高いー低い（高さ）／深いー浅い（深さ）／広いー狭い（面積）／丸いー角い（角度）など ○まとまりのある3つの群について、多少の区別をする。 （$A > C > B$）／（$A = B = C$） ○毎日の欠席調べやけが調べで、誰も該当する人がいないときに0人だという表現や、お皿のクッキーを食べてしまったときに、全部無くなった（0個）と言うような表現を用いる。（0の概念形成） ○人・個・本・枚など数詞を遣って話す。 ○～と比べて、～の方が、一番～など、関係を比較して表現する言葉を遣う。 ○今日の日付や曜日、現在の時刻を言ったり、時間や月日の順序を考えて話したりする。
②数えること・まとまりで把握すること（分離量や連続量）	○生活の必要に応じて、事物を指さして数えたり、1対1対応させながら数える。 （例；30人くらいの人数に合わせる。縄跳びやおやつ作りなど） ○求めに応じて、「〇〇を〇個」、「〇〇を〇個」、「〇〇を〇個」など、種類や数の違うものをとる。 ○前から〇人目、右から〇番目、下から〇段目など順序や位置関係が分かる。 ○学級の友達と人数やものの個数を意識しながら、テーブルセッティングをする。 （カレーライスやクッキーなど） ○お茶や牛乳などの液体を、同じサイズのコップでほぼ同じ量につぎ分けようとする。 ○ひもや紙やホットケーキなどを、同じくらいの長さや大きさに切ったり分けたりしようとする。
③図形（平面・立体・空間）	○体（目・鼻・耳・口・頬・眉・額・髪・腕・足・手など）やものなどの部位を意識して全体をつくったり描いたりしようとする。 ○興味をもったいろいろなものを模写しようとする。（例：動植物や図や国旗や絵本など） ○異なった形を区別して使用したり片付けたりする。（例；木の実や木の葉など自然素材や、ブロックや積み木・ままごと道具など分類して片付けたり使用するなど） ○上から何段目、左から何番目など置き場所がわかる。 ○形や凹凸などの形状がきちんと当てはまるように注目しながら、作品や片付けを

	完成させることを喜ぶ。(ジグソーパズルや自作の遊具など) ○折り紙を折ったり展開したりして器や立体をつくる。 ○真ん中や中心が分かって、バランスよくものをつくったり動かしたりする。 ○上下・左右・前後・斜めの空間的位置が分かり、動いたり人に伝えたりする。 ○積み木や空き箱・木片などを組み合わせて、家や基地、遊具などをつくる。 ④パターンと組み合わせ ○ものの形(大きさ・長さ)や色の形状や特徴に応じて並べる。 ○パターン化された6つくらいまでの物の数が直感でわかる。(例:トランプやサイコロの目) ○並んだ絵の繰り返しに気付き、次にくるものを予測して楽しむ。 ○カレンダーに関心を持ち、生活の中で意識したり使ったりする。 ○日常の生活のリズムをつかんで、活動を見通したり、準備や始末をしたりする。 ○いくつかの特徴で事物を分けたり仲間(集合)作りをしたりする。 ○自分自身でパターンをつくって楽しむ。(例 ビーズや木の実のアクセサリー・ものを描いたり物語を書いたり・動きの表現の中で) ○拍やリズムに興味をもって、まねたり、呼応したり、替え歌をつくったりする。
D. 協同的感性	①協同的な言葉や表現 ○友達と一緒に歌ったり踊ったりして共鳴することを喜ぶ。 ○役割を分担したり、役に合わせた表現を工夫してごっこ遊びを楽しむ。 ○友達と活動の目的や目標などについて話し合う。 ○相手の意見と自分の意見の違いや共通点について気付き、話し合う。 ②人間を理解し関係を調整する力(21項目) ○異質なものの出会い ①自分の思うようにならないことを体験する。 ②必要なときに、人に助けを求める。 ③他者が「いや」という行為や事柄に関心をもつ。 ④自分がされて嫌なことには、そのことを態度や言葉で表現する。 ⑤嫌なことを受け流したり、距離をおいて付き合ったりする。 ⑥自分と異なる行動や意見に対して考えるゆとりをもつ。 ○異質なもののへの興味や関心 ⑦他者の行為や言葉に関心をもつ。 ⑧他者の思い入れや思い入れのあるものに気付く。 ⑨他者の言い分に真剣に耳を傾けて聴く。 ⑩感情を込めた言葉や論理的な言葉で伝えたり説明したりする。 ⑪他者の行為の意味について想像力を働かせる。 ○他者との交流 ⑫友達の遊びや活動に入ったり、友達を誘ったり、受け入れたりする。 ⑬活動や遊びの中で、やりたいことをしたり、なりたい自分を表現したりする。 ⑭イメージを共有したり、役割を分担したりしようとする。 ⑮自分の気持ちや行動、他者からの評価などの変化に気付いたり関心をもったりする。 ⑯自分や他者の良さに気付いたりそれを生かしたりする。 ⑰自分と違うところをもつ人に憧れる。 ○関係性をつくる ⑱友達や他者に共感したり応援したり励ましたりする。 ⑲仲間のトラブルに介入したり、関係を調整したりする。 ⑳緊張した場面をユーモアで和ませたり解決したりする。 ㉑問題に対して創造的に解決しようとする。

【分析結果と根拠理由】

幼児期から児童期を一つの枠組みとした接続期を設定して、「発見と問題解決(①好奇心・試行錯誤 ②論理的に理由付けされた行動)」、「言葉への関心(①話すこと・聞くこと ②書くこと)」、「数量と図形(平面・立体・空間)(①数理的な見方や考え方や表現 ②数えること・まとまりで把握すること(分離量や連続量) ③図形(平面・立体・空間) ④パターンと組み合わせ)」、「協同的感性(①協同的な言葉や表現 ②人間を理解し関係を調整する力(21項目))」の項目が設けられている。このことによって遊びが、何を育てているのかが具体的になり、遊びが学びであることに納得ができる。この学びのプロセスに気づき、幼児の遊びや活動から教育的価値を見いだす力量がついていくと

考える。

令和5年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果の高い評価や記述にある「自主的に」、「いきいきと」、「自分のやりたいことをとことん」という見取りには、学ぶ喜びやさらに学びを深めようとする幼児期の特性等を活かした教育方法への理解が垣間見える。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

本園の伝統や特性を生かした教育課程・指導計画である「生活プラン」による保育を進めているが、本園の保育理念である「子どもと創る保育」を読み直したことは教師観を揺さぶるよい機会になった。子どもをいかに信じて日々の生活を進めていくか、信じた結果、豊かに育つ子どもたちを目の当たりにして「子どもと創る保育」をさらに読み解いてみたいという思いがある。今後活かしていく。

科学的思考力涵養を図るという観点は、幼児期から児童期に向けての発達や学びの連続性が捉えられている。特に、小学校1年生の生活科をはじめとした各教科との関連性が考慮されていることが、評価要素のカテゴリー設定に現れている。「発見と問題解決（①好奇心・試行錯誤 ②論理的に理由付けされた行動）」、「言葉への関心（①話すこと・聞くこと ②書くこと）」、「数量と図形（平面・立体・空間）（①数理的な見方や考え方や表現 ②数えること・まとまりで把握すること（分離量や連続量）③図形（平面・立体・空間）④パターンと組み合わせ）」、「協同的感性（①協同的な言葉や表現 ②人間を理解し関係を調整する力（21項目）」は、STEAM-I・C教育も包括しており、幼稚園教育要領にある「遊びを通しての総合的な指導」でもある。子どもの遊びや姿からその中にある教育的価値を見だし言語化・可視化することは、幼稚園教育を進めていくうえで必要とされている。幼小の接続はもちろんのこと、参観者や講演でこれらを基に幼稚園教育を伝え、幼稚園教育への理解が得られやすく、活用したいとの声が上がっている。

【改善を要する点】

評価項目や内容についての妥当性を確認することができたが、幼小連携の科学的思考力涵養プログラムにおいて、引き続き小学校との合同保育／授業等を実施する際には必ず教育方法の違いでの壁にあたってしまう。学習指導要領も改定され、互いの教育のつながりがさらに密になってきているがその理解は非常に難しい。まずは、幼稚園側の理解を確認し、小学校側に説得力をもって伝えられる実践と力量が必要になる。その上で、教師同士が接続の相互理解を進めることや、保育実践の中で活用し改善の可能性について追求していくことが求められる。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

自己評価の基準

- A 十分達成されている
 - B 達成されている
 - C 取り組まれているが、成果が十分でない
 - D 取組が不十分である
- ※評価項目ごとの自己評価の基準は、以下同じ

評価項目 2 保健安全管理

(1) 観点ごとの分析

観点 2－1 保健計画の作成・実施の状況、園の環境衛生の管理状況

【観点到係る状況】

月別指導計画の見直しの実施については、今年度も月別の指導計画を毎月見直し、幼児の実態に応じた健康診断についての工夫や、時期に合わせた疾病の予防・自分たちの体のことなどについて計画を立て、それに沿って保健管理や保健指導を実施した。食育については、新型コロナウイルス感染症が、令和5年5月8日に季節性インフルエンザと同じ感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律上の5類感染症に移行し、感染対策も個人の判断に委ねられるようになった。それに伴い、おやつ部屋も3年ぶりに運営を再開した。無添加で自然の味が五感を通して楽しめるようなものをおやつ時間に提供するように努め、保護者ボランティアが入り、園で育てた野菜やサツマイモ等を使った手作りのおやつもふるまわれた。食物アレルギーの対応が必要な幼児に向けては、基本的に園児全体の体にも良く、対応が必要な幼児もできるだけ同じものをみんなで美味しく食べられるように工夫した。併せてアレルギーのある人への正しい知識と理解を同じ学級の幼児に担任が指導した。また、食物アレルギーのある幼児については、4月当初に保護者と個別面談をし、アレルギー管理表を提出してもらうとともに職員に説明し共通理解を図り、職員研修を実施することにより職員の知識・技術の向上に努めた。

保護者へは、健康診断後、「ほけんだより」に身体測定の様子を掲載した。個人毎には、健康診断結果一覧表を配付し、治癒勧告のある幼児には再度医療機関への受診をお願いした。保健指導に関する協力についても、各組毎に講話をし、むし歯予防に対する知識を高めた。また幼児に対しては、各組のえほんのへやの時間を利用し、発達段階に応じて年少・年中児には、むし歯ができる原因と歯磨き指導を、年長児には6歳臼歯を中心とした歯みがき指導を行った。毎月幼児と保護者に向けて「ほけんだより」を配付し、幼児に健康の概念が育つような内容とした。保護者には、園内で流行している疾病の予防法や健康診断後の考察、保健室の利用状況などの情報を適宜提供し、園と家庭が協力して幼児を育ていけるように協力をお願いした。また、保護者からの健康相談に個別に応じ、園と家庭の共通理解を深めた。

園の環境衛生については、学校薬剤師による指導や定期的な検査により、細菌・水質等園内の環境安全管理に努めている。また、砂場や遊具など園児が直接触れるものについては、消毒をするなどの配慮をしている。感染症対策として、年間を通して、徳島県感染症情報センターからの最新の情報や周囲の学校の状況を把握し、職員に周知して予防に努めた。手洗い方法も園舎内へウイルスが入らないように園舎外で必ず手洗いと手指消毒を行うように徹底した。

【分析結果と根拠理由】

年度当初に昨年度の反省をもとに保健室の指導計画を立て、健康診断の実施や疾病予防の取り組みを行っている。また、緊急を要する対応が必要な場合には、状況に応じて計画を改定していくことが大切であると考えている。

【幼児の姿】

- ・気温の急な変化により、熱が出たり咳をしたりしている幼児もみられる。
- ・手袋やマフラー、コートなどを身につけて、暖かくしている。
- ・外で走ったり運動をしたりするときは、上着を脱いで遊ぶことが徹底されてきている。
- ・うがいや手洗いなどが、水が冷たいので十分でない幼児がいる。
- ・園の生活に慣れ、自己中心的だった幼児たちが、友達と一緒に行動することが常になってきた。友達の話をよく聞き相手の気持ちを汲める幼児もいる。

【ねらい】

- ・感染症の予防（手洗い・手指消毒）をしようとする。
- ・上着を脱いで、戸外でしっかり運動をしようとする。
- ・規則正しい生活をしようとする。
- ・友達の気持ちを知り、あたたかいことばが、かけられるように考えることができる。

指導内容	指導の要点と環境構成の留意点
○感染症の予防（手洗い・手指消毒）をしようとする。	○感染症の予防には、丁寧に手を洗うことや、手指消毒が大切であることを学習し、水が冷たいので丁寧に洗えていないことを伝え丁寧に洗えるようにする。 ・トイレの後、おやつの前、外から帰った後、お弁当の前は、必ず手洗い・手指消毒をするよう声をかける。
○規則正しい生活をする。	○早寝・早起きや、バランスの良い食事などが実行できるよう保護者にもお願いする。 ・行事にあわせて病気の予防を呼びかけ、たとえば豆まきでは「病気もそと」と、病気に負けない気持ちを育てる。
○上着を脱いで、戸外でしっかり運動をしようとする。	○一輪車やサッカー・ドッジボール・竹馬・縄跳び・ホッピングなどで身体を思い切り動かし、戸外で元気に遊んでいる。上着を着たままだと汗で頭までびしょりと濡れてしまうので、外へ行くときは必ず上着は脱いでいくことをお願いしてきた。ほとんどの幼児ができていたので、さらに徹底していくよう声かけをする。 ・寒くなると身体がかたくなり、けがをしやすいため、十分に準備運動をするなどし、けがの予防をする。
○友達の気持ちを知り、あたたかいことばが、かけられるように考えることができる。	○友達と一緒に遊ぶことの楽しさをみんなが理解してきたようであるが、それに伴い、自分の気持ちが通らなかつたり、いえなかつたりして、友達にいやな気持ちになるようなことばかけをして、けんかになったり、泣いたりしている。 節分にちなんだ、あたたかいことばをかけるふわふわ鬼といやな気持ちになることばをかけるちくちく鬼を例にして、園や家庭でことばについて考える機会をもつ。
（保護者への対応） *保護者との健康相談の場を設ける。	*子どもたちの身体や心の健康について、また、子育て全般について、健康相談の場を設けるとともに、必要に応じて専門機関への連絡を取るなど、保護者のニーズにあった支援を行う。

別添資料 1－② 令和 5 年度幼稚園評価アンケート結果報告書
別添資料 2－① ほけんだより 2 月号

観点 2－2 危機管理対策の見直しと強化

【観点に係る状況】

「令和 5 年度安全管理計画－危機管理マニュアル」（別添資料 2－②）を昨年度の反省にたち見直した上で作成し、それに基づき計画的に安全管理を実施している。また、毎月 20 日の学校安全の日には、教職員が複数体制で園内の安全点検を実施し、危険箇所などは速やかに修理・修繕をするなどの即時に対応をしている。また、6 月には教職員が全員で心肺蘇生法の講習会に参加し、救急処置の最新の方法について知識を得て実技講習を行った。

【資 料】 防災・避難訓練の実施

①幼小合同防災訓練（地震・津波想定避難訓練）計画

- ねらい ・実際に地震や津波が起こった時、保育者の指示にしたがって全員が避難できるよう
○期 日 安全な避難の仕方を身に付ける。
・地震や津波の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
令和 5 年 5 月 15 日（月） 10：50～11：30

②避難訓練（不審者対応）計画

- ねらい ・実際に保育中不審者が侵入してきた場合、保育者の指示に従って速やかに行動できるよう、安全な避難の仕方を身に付ける。
○期 日 令和 5 年 5 月 26 日（金）10：50～11：05
○状況設定 ・幼稚園の敷地内への不審者の侵入を許した場合を想定。
・不審者が小学校の芋畑方向から侵入。石庭「大地の子」に入ってきたと想定。

③防災訓練（地震・火災）計画

- ねらい ・実際に地震や火災が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
・地震や火災の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
○期 日 令和 5 年 9 月 1 日（金） 9：40～10：00

④幼小合同避難訓練（地震・津波想定）計画（今回は幼稚園単独で実施）

- ねらい ・実際に地震や津波が起こった時、保育者の指示にしたがって全員が避難できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。
・地震や津波の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。
○期 日 令和 5 年 10 月 2 日（月） 9：40～10：00

⑤防災訓練（全国一斉地震速報訓練）計画

- ねらい ・地震による揺れから身を守る。
・緊急地震速報を見聞きした時、強い揺れに襲われるまでの短い間に慌てずに身を守るなどの行動を身に付ける。
○期 日 令和 5 年 11 月 2 日（木）10：00 頃（気象庁からの訓練用緊急地震速報の配信時刻）

⑥避難訓練（地震）計画

- ねらい ・実際に地震や津波が起こった時、保育者の指示にしたがって速やかに行動できるよう安全な避難の仕方を身に付ける。

・地震の恐ろしさや、生命や身体を守ることの大切さを知る。

○期 日 令和6年1月17日（水） 10：15～10：25

【分析結果と根拠理由】

危機管理マニュアルについて、年度当初に職員会で周知して、避難訓練の際さらに詳しく確認するよう努めた。また、今年度実施後、問題点や課題を考察し、次年度からの危機管理マニュアルに反映できるようにする。

別添資料 2-② 令和5年度安全管理計画－危機管理マニュアル－

（2）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

指導計画に基づいて保健指導を実施し、幼児の実態を観察することで月の指導計画を見直し、全職員で園の保健指導体制やその内容について協議するなど、適宜よりよく改定している。幼児の健康や安全に関する情報を毎月提供する「ほけんだより」も幼児が保護者と一緒に読め、健康教育につながるように、ひらがなとカットで構成し、健康について考えてもらえるように工夫した。ほけんだよりの内容に合わせた掲示物を保健室で掲示し、怪我や病気での来室時に個別に話ができるようにした。健康の概念をまだ持っていない幼児に対して、元気で登園するための正しい生活習慣がしっかりと身につくように考えた。

危機管理対策の見直しと強化については、危機管理マニュアル（安全管理計画）に基づき、毎日、毎月の安全点検や防災・避難訓練を実施することにより、事故の防止に努めるとともに、幼児に対して安全な避難の仕方を身に付けさせたり、生命や身体を守ることの大切さを知らせたりしている。今年度も、気象庁主催の全国一斉地震速報訓練に参加したり、防災訓練も、全て訓練があることを事前に子どもたちに知らせずに訓練を実施したりした。幼児は、どの子も遊んでいた場所の近くの保育者の側に集合し、保育者の指示に従い、速やかに避難することができた。避難訓練を重ねることにより、幼児は自分たちが遊んでいたところに大人がいなかったため、自分たちで考えて、隣の保育室にいる教員の元に逃げることができていた。また、避難訓練時には、当日園内で活動している保護者ボランティアも訓練に参加するなど、保護者の意識も高めるようにしている。また、防災用ヘルメット（大人用）を購入し、各場所に設置した。

今年度も、日本赤十字社徳島支部より講師を招き、幼稚園で実施した。救急処置において幼児に対応した実技講習による技術習得のみならず、食物アレルギーについての最新の知識とアナフィラキシーショックが起きたときの対応も知ることができた。実施することで、安全対応の能力の向上に役立てている。

不審者侵入対策として、今年度、非常通報装置を園内4箇所に設置し、すぐに警察に通報できるシステムを導入した。

また、交通安全の面では、毎年市が主催する交通安全教室を実施し、幼児に道路を通行する上でのルールを守ることの大切さを伝えている。

【改善を要する点】

何度も同じ訓練を行うことにより、幼児が安全に動けるように考えていきたいと考える。また、災害時には、保護者との連絡手段やお迎えの道が絶たれてしまうことも考え

られる。様々なシミュレーションを考え、柔軟に対応できるような訓練をしたい。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

評価項目3 組織運営

(1) 観点ごとの分析

観点3-1 園務分掌や主任制度が適切に機能するなど、園の明確な運営・責任体制の整備の状況

【観点到に係る状況】

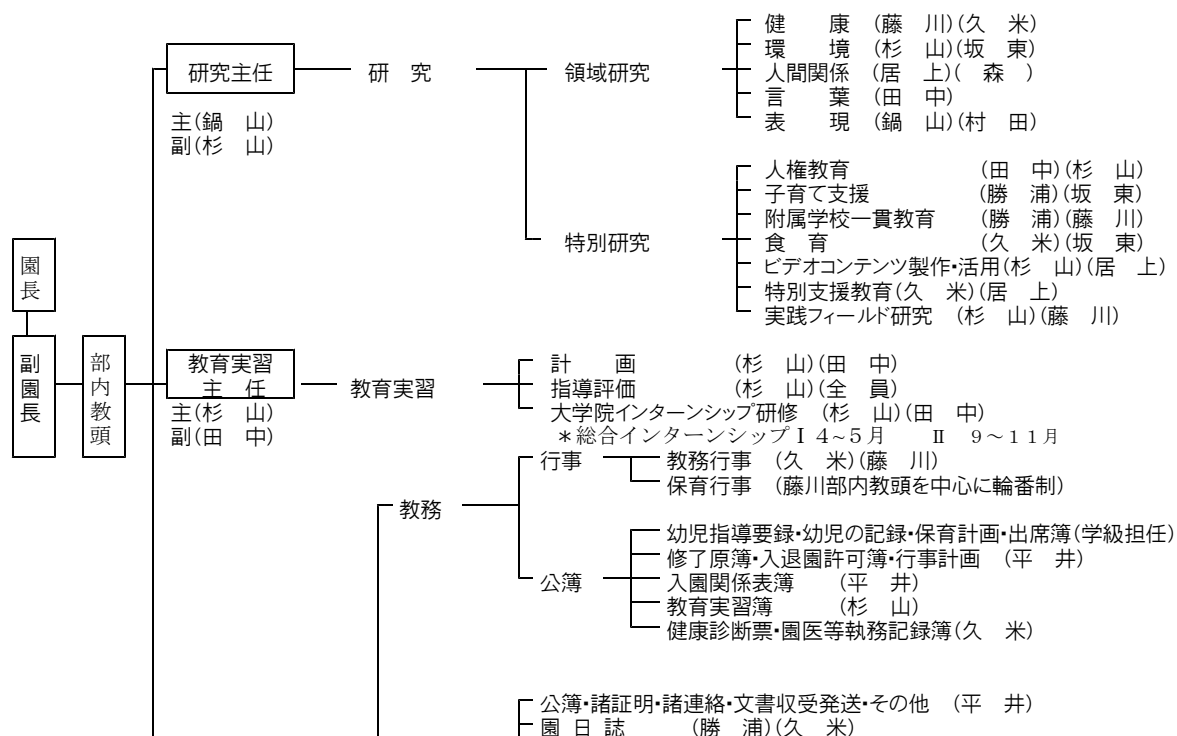
本園は、研究部・教育実習部・教務部の3部に編成した運営体制を組織している。3主任を責任者として配置して、それを園長・部内教頭が統括するという園務分掌を定めている。平成26年度より専任教頭が廃止されたので、学級も担任する部内教頭の負担を減らし、各主任のリーダーシップが発揮されやすいよう改善を行ってきた。少数精鋭主義に徹して、職員が互いに協力して園務の能率化・省力化が図れるよう配慮するとともに、各種行事における責任者を分担制（主任・副主任）にし、主体的に園経営に参加できるように努めた。新型コロナウイルスが感染症法上5類に移行されてから、感染の状況に配慮しながら、行事のもち方について話し合ったり意見を交わしたりしながら、徐々に戻していき進めていった。園運営に関する事項については、毎月の定例職員会議で、担当責任者が議題や報告をあげ、全職員で協議し共通理解を図ったうえで対応し、必ず次年度に向けた反省を欠かさないようにしている。その他においても必要に応じ、協議する機会をとっている。

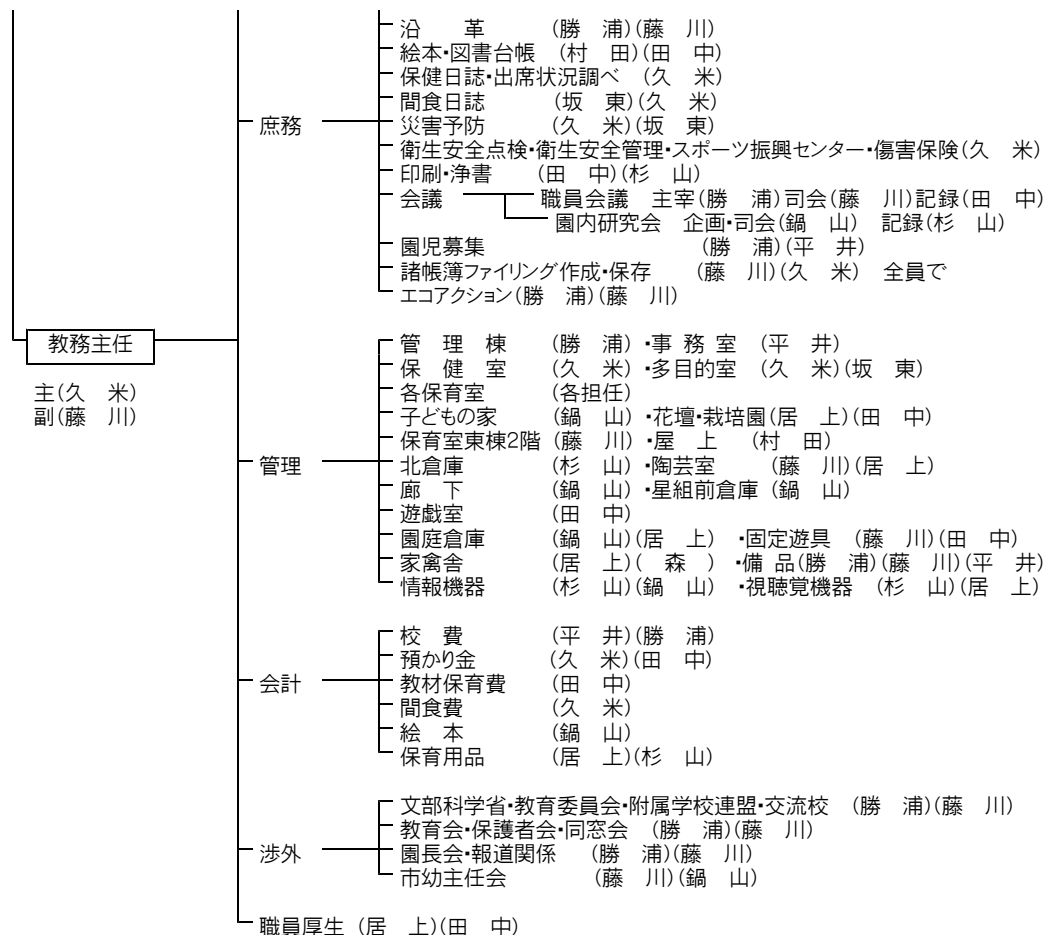
【資料】 令和5年度第1回職員会議題

令和5年度 第1回 職員会議			
鳴門教育大学附属幼稚園			
と き	令和5年4月3日（月） 9:30～		
ところ	附属幼稚園 遊戯室		
議 事	園長あいさつ 転入者あいさつ		
1 協議事項			（担当者）
（1）令和5年度人事異動について	資料1		（園 長）
（2）令和5年度 教頭・主任発令・学級担任及び領域研究について	資料1		（園 長）
（3）令和5年度 職員の勤務について	資料2		（園 長）
（4）令和5年度 園経営方針について	資料3		（園 長）

(5) 令和5年度 園務分掌について	資料4	(藤 川)
(6) 令和5年度 年間行事予定・4月行事予定・春休みの勤務について		(久 米)
(7) 新学期諸準備について	資料5	(藤 川)
(8) 新入園児用品渡しについて	資料6	(居 上)
(9) 感染症対策の園の方針について	資料7	(園 長)
		(藤 川)
(10) 入園式について	資料8	(久 米)
(11) 始業式について	資料9	(久 米)
(12) 附属幼稚園職員連絡網・教職員名簿について	資料10	(藤 川)
(13) 園児緊急連絡網について		(藤 川)
(14) 芙蓉会規約について	資料11	(平 井)
(15) 令和5年度 幼稚園要覧について	資料12	(藤 川)
(16) 四附連(高松)について	資料1	(園 長)
	3	(藤 川)
2 連絡事項		(園 長)
(1) 文書整理・情報管理等について		(園 長)
(2) 経費節減について		(園 長)
(3) 四附連について		
3 その他		(園 長)
(1) 労働環境協議会役員改選について		(園 長)
(2) ハラスメント相談委員改選について		

【資料】 令和5年度 園務分掌





* 動物の家 森・5歳組担任を中心に

* 誕生リボンと表示 森

【分析結果と根拠理由】

上記資料のような組織で園務を分掌し、幼稚園運営を行っている。少人数で多岐にわたる業務を分担しているため、個々への負担は大きいですが、各々が責任をもって園運営にあたっている。

観点3-2 教員のキャリアステージに応じた資質・能力の向上

【観点に係る状況】

平成29年度に徳島県教育委員会が策定した「幼稚園教諭等 教員育成指標モデル」を参考にしながら、保育者のキャリアステージに応じた資質・能力の向上に取り組んでいる。本園の幼児教育研究会においても、分科会でフレッシュ保育者・ミドル保育者・ミドルリーダー保育者・リーダー保育者のそれぞれのキャリアステージに分かれて行い、参観者の先生方とより具体的で深い保育の話や幼児理解、保育者の関わりなどについて活発な話をする事ができた。本園でも園長をリーダーに、互いに連携しながら先輩の先生の動きや配慮などについて保育の中で学び、自分の保育のあり方について振り返りながらステップアップにつなげていっている。

また、組織運営についてのキャリアステージに応じた資質・能力の向上が必要である。報告・連絡・相談の徹底や、ミドルリーダーにおいては、全体を把握しながら計画を立てるべきことがスムーズに実施できるように的確な指示を出す必要があるが、その責任の所在が分からず指示が出ないため一つの業務に必要な以上の時間を要し職員の疲弊に

つながる状況がある。働き方改革が言われる中、勤務時間に着目をしがちであるが、それぞれのキャリアステージでの必要な資質・能力を身に付ける機会を保障しなければ、園自体が機能しなくなってしまうという危惧がある。

今年度、鍋山由美教諭が永年勤続者表彰（10月）、文部科学大臣表彰（1月）を受けている。継続勤務や研究主任としてのキャリアが認められている。

【分析結果と根拠理由】

その日の保育や気になる子どもについて、学級や学年に関わらず職員間で話をし保育に活かしていつている。互いに話をすることで考え方が広がったり、根拠のポイントが分かったりすることで保育者自身の思考力向上にもつながっていつている。一方で、園務分掌の仕事やすべきことについて予測し行動したり、物事を深く捉えて責任をもって行動したりする点で、さらに改善しそれぞれのキャリアのステップアップにつなげたい。

また、自分自身のキャリアステージと必要な資質能力を確認し、それぞれのキャリアに応じた資質能力が身に付くように自覚をもつ必要がある。トップダウンではなくキャリアにおける資質能力を発揮し、発揮した力が活かされ組織が機能にしていこう努める必要がある。

（2）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

園務分掌を詳細に示し、責任の所在や業務内容を明確にすることで、少ない職員数で運営できるように工夫している。責任担当者を複数体制で組織し、共通理解や協力体制を深めながら園運営が円滑に推進できるようにしている。

年度当初に示した全体計画に沿って、担当者が計画立案した資料を職員会議にて協議・決定をする。また、実施にあたっては全員で再確認のための打ち合わせを行い、確実に実施できるよう共通理解や全体把握に努めている。実施後は全員で反省し、次年度に向けての改善策を話し合い、記録に残していくようにしている。また、教職員が少人数であるため、全員で取りかかるべき事案と、そうではない場合を明確にし、運営の効率化を図っている。また、昨年度より導入している、幼稚園と保護者をつなぐ連絡手段をデジタル化するサービス（スクリレ）を通して、保護者へ伝達事項等を配信することにより、保護者への連絡がスムーズに行えるようになっている。ICTの有効活用が進むことで業務の軽減につながっている。

また、幼稚園等教諭教員育成指標モデルを活用しながら、それぞれのキャリアステージに応じた自身の行動を振り返ったり、より仕事に自覚をもったりしながら、よりよい保育実践や円滑な組織の運営につなげられるようにしていきたい。

【改善を要する点】

「働き方改革」の実践のために、これまでは職員が行っていた施設や遊具の修繕・塗装などは外注している。また、幼児教育研究会の参加申込みを、今年度も外部業者に委託した。仕事の共同作業化と工具等の購入等の改善を随時行うなど、職員の負担軽減のための方略を工夫しているが、業務や組織構成の見直しを行う必要はまだある。

前述したが、職員間で協力体制をより強固にし、一人一人がより自覚と責任をもって保育や業務を遂行していけるようにしていきたい。

（3）評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「B 達成されている」と判断する。

評価項目4 研究と研修

(1) 観点ごとの分析

観点4-1 幼児教育研究と園内外における研修の実施

【観点到係る状況】

①園内研究会・合同研究会

少子化の加速をはじめとする様々な社会問題に対処し、社会全体で子どもの成長を後押しするため「子ども家庭庁」が2023年4月に発足された。そこで「就学前の子どもの育ちに係る基本的な指針」が策定され、また、2021年からは「幼保小の架け橋プログラム（文部科学省中央教育審議会「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」による）」が検討されるなど、幼児教育を取り巻く状況は大きく変動している。こうした「こどもまんなか社会」がスタートする中で、改めて子どもの権利の尊重が重要視されるようになってきた。「子どもの権利条約」4つの原則のうちのひとつ「○子どもの意見の尊重（意見を表明し参加できること）：子どもは自分に関係のある事柄について自由に意見を表すことができ、おとなはその意見を子どもの発達に応じて十分に考慮します」とあるように、幼稚園の生活も必要に合わせ子どもが自分たちで創っていくことが望ましく、「遊びも生活も、子どもと共に創る」、そうした保育が社会全体から求められている。さらに、3つの資質能力や幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」をいかに育むかということも同時に実現するために、教師には高い専門性が求められる。

幼児教育は環境を通して学ぶものである。保育者は環境を、子どもを遊ばせようとする保育者主導のものではなく、子どもが自ら遊びや生活を創り出そうとするものとしなくてはならない。また環境をつくるだけでなく、子どもの傍らに寄り添い、楽しみ、味わい、考え、試し、目標に向かって共に生活する、人的環境として求められている。つまり、子ども任せや放任とは異なる、「子どもと共に生活を創る力」が保育者には必要なのだ。

本園には、こうした現代的課題に対応できる研究成果（教育課程）が作られていた。昭和62年に出版された鳴門教育大学附属幼稚園『子どもと創る保育』（明治図書）である。本園の保育の基本姿勢として受け継がれてきている。さらにこれまで、子どもたちが主体的に生活したり遊んだりするくらしに誘っていく環境を遊誘財と命名し、研究を積み重ねてきた。これらを整理して、子どもと共に創る保育のために保育者がどこに視点をおき子どもの内面を理解し配慮しているかということを明らかにする中で、保育者に必要な専門性が見えてくると考え、今年度は「遊誘財から保育者の専門性を問う—子どもと創る保育のために—」という研究テーマの元、研究を進めてきた。

今年度も本学幼児教育コースと協力して研究を進め、園内研究会・合同研究会を行った。オンライン会議システム（Zoom）を使用したリモート会議の運営もスムーズになり、効率的な運営が可能になった。また、園内研究会のうち5回は、公開保育を兼ねた研究保育を行った。今年度は人数や県内などの制限をせず参加募集が可能になり、県内外を問わず多くの参加者を迎えることができた。活発な保育協議を経て、日々の保育の見直しにもつながった。

②幼児教育研究会

今年度は公開保育ならびに全体会（挨拶、研究発表）、分科会を実施した。全体会以降はリモートと現地参加のハイブリッド型という形をとった。リモートで参加可能な分科会を固定し運営のスリム化を図ったことで、費用的にも仕事量的にもコンパクトな実施が可能となり、職員の働き方改革につなげることができた。これは昨年度の反省を踏まえたものである。

現地参加として330名、リモート参加では144名の、合計474名の参加者を迎えた。

申込み受付や配信などは昨年同様、専門業者に依頼したことで作業の効率化を図り、働き方

改革においてさらに一步前進することができた。研究紀要の購入受付や参加者からのアンケートなどもデジタル化をすすめており、作業効率は年々上がっている。今後もさらに改革を進めていきたいと考えている。

保育公開・全体会・分科会の内容については以下のとおりである。

1) 保育公開 (9:00～11:30)

2) 移動・昼食 (11:30～13:00) 於：附属小学校体育館

3) 全体会 (開会 及び 研究発表) (13:00～14:10) 【オンライン参加可能】

挨拶	鳴門教育大学	理事	美馬 持仁
	鳴門教育大学附属幼稚園	園長	勝浦 千晶

研究発表 『 遊誘財から保育者の専門性を問う
ー子どもと創る保育のためにー 』
鳴門教育大学附属幼稚園 研究主任 鍋山 由美

4) 分科会 (保育説明・研究協議) (14:20～16:20) 【オンライン参加可能】

① フレッシュ・リーダー保育者部会 (経験5年くらいまでの保育者・管理職など)

司会・コーディネーター	幼児教育コース	教授	木下 光二
	幼児教育コース	教授	佐々木 晃
	幼児教育コース	准教授	木村 直子
提 案	田中みゆき(4歳児担任)	勝浦 千晶(園長)	森 優香 (動物の家担当)

② ミドル保育者部会 (経験5年～10年くらいまでの保育者)

司会・コーディネーター	幼児教育コース	教授	湯地 宏樹
提 案	杉山 健人(4歳児担任)	居上真梨子(5歳児担任)	村田 麻衣(屋上・絵本のへや担当)

③ ミドルリーダー保育者部会 (主任や園の中核をになっている保育者)

司会・コーディネーター	幼児教育コース	教授	田村 隆宏
	幼児教育コース	教授	塩路 晶子
提 案	藤川 佳余子(5歳児担任)	鍋山 由美(3歳児担任)	久米 真里(養護教諭)
	坂東 幸子(おやつのへや担当)		

5) 閉会 (16:20～16:30) 於：各会場

参観者からのアンケートでは運営、内容共に高く評価されている。今後も、本園の保育研究を全国へ向けて発信していきたいと考えている。来年度は、働き方改革の一環として研究会を一年おきとするコロナ禍以前の体制に戻していくことも検討しつつ、研究内容の発信方法についてもさらに工夫していきたい。

以上のことから、幼児教育関係者への研修支援が適切にできていると考える。

別添資料 1－③ 生活プラン（2014.8.1発行）
 別添資料 4－① 令和5年度参観者 アンケートグラフ・まとめ
 別添資料 4－② 令和5年度幼児教育研究会 アンケートグラフ・まとめ

③園外の研修会等への参加

- ・文科省等主催の研修（WEB） 幼稚園担当指導主事・担当国会議（WEB） 1名
- ・県・市教委主催の県・市国公立幼稚園こども園長会、全国国立大学附属学校連盟副園長会研究会、全国国立大学附属学校PTA連合会PTA研修会、国・県幼稚園教育課程研究協議会、日本教育大学協会附属学校連絡協議会園長分科会沖縄大会、全国附属学校連盟幼稚園部会茨城大会、全国国立大学附属学校連盟養護教諭部会、養護教諭研修会、学校保健安全研究協議会 等
- ・市幼稚園教育研究協議会、全幼研徳島支部、教育会主催の研修会 等

以上のとおり、数多くの研究会・研修会に園務に支障のない限りできるだけ積極的に参加し、そこで研究発表や話題提供なども行っている。

観点 4－2 教育委員会並びに幼児教育関係者への研修支援等の状況

【観点に係る状況】

本園は研究幼稚園・奉仕幼稚園としての使命をもっている。今年度の具体的な研修支援、教員派遣、公開保育の提供としては、次のとおりである。

- ・令和5年度徳島県保育・幼児教育アドバイザー、令和5年度徳島県幼稚園等新規採用教諭研修運営協議会委員、公益社団法人全国幼児教育研究協会徳島支部支部長、青少年赤十字徳島県指導者協議会副会長、を園長が務めた。
- ・県・市教委主催の研修会への講師派遣（幼稚園等マネジメント研修、主任教諭研修会）
- ・県幼稚園等新規採用教員研修・幼稚園長等運営管理協議会における指導
- ・県内外研修会への講演講師の派遣（新任保育市・保育教諭研修：参加者70名、阿南市教育委員会・保育事業団、徳島市教育委員会、松茂町立幼稚園入園説明会並びに研修会、松茂町教育委員会、徳島市幼稚園長会）
- ・「幼児教育の推進体制構築事業」協力
- ・文部科学省委託事業全附属受託研究への協力
- ・子ども家庭庁への協力（令和5年度子ども・子育て支援調査研究事業 幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「幼保連携型認定こども園として特に配慮すべき事項」等に関する調査研究）
- ・鳴門教育大学（令和5年度「職」の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業協議会委員、令和5年度大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の「職」の魅力向上・発信事業（幼稚園教諭免許法認定講習等の在り方に関する調査研究）検討委員会）
- ・NITS・京都教育大学教職大学院コラボ研修「幼児教育協働研修」シンポジスト 1名
- ・幼稚園参観・研修（社会福祉法人弁天会から23名、令和5年度青少年赤十字国際委交流事業にかかる訪問2名、令和5年度大津市立幼稚園教員県外派遣研修1名、「モザンビーク国新しい学校教育制度に対応したカリキュラム普及プロジェクト」に係る研修員訪問6名）

別添資料 4－③ 委嘱・委員等一覧（勝浦）
別添資料 4－④ 参加研修一覧（藤川、久米、鍋山、杉山、居上、田中、坂東、村田、森）
別添資料 4－① 令和 5 年度参観者 アンケートグラフ・まとめ

観点 4－3 地域住民への貢献

【観点に係る状況】

本園は奉仕幼稚園としての使命をもち、専門性を発揮し、次のような地域貢献を果たしている。

- ・オープンスクールの実施。アンケート回答者 104 人（11 月 3 日）。
- ・とくしまちなか花ロード Project に参加し、徳島の中心市街地の緑地化を進めるべく、年 3 回「西ノ丸橋★子ども美術館」展示に参加。
- ・教育講演会の開催。今年度は、本学大学院学校教育研究科高度学校教育実践専攻（教職系）幼児教育コース教授の湯地 宏樹先生を講師に「スマホ時代の子どもと子育て」と題した講演会を令和 5 年 9 月 21 日（木）に実施した。本園保護者に提供するとともに、幼児教育に関心のある一般の方にも公開した。

別添資料 1－① 令和 5 年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果

【分析結果と根拠理由】

様々な地域のイベントにも機会を捉えて参加するなど、地域との関わりを意識的にもつよう心掛け、附属幼稚園が地域に果たす役割について職員や園児とも共通認識をもつようにしている。また、地域住民の子育て支援についてもオープンスクールや様々な講演会を実施して、積極的に進めている。

（2）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

今年度は合同研究会や公開研究保育などにおいて、コロナ禍以前のように人数制限をしない開催を実施することができた。そこで本園の研究成果や保育について、園外との教育関係者に提供する機会を設けることができた。研究内容については、これまでの遊誘財研究の成果に加えて幼児教育の今日的課題を見据え、幼児が主体となる保育の在り方について実践事例を元に本学大学教員との合同研究会を行い、さらに公開保育も行った。本園がこれまで積み上げてきた「子どもと創る」教育課程の具体について事例研究や保育協議を通して提案することができ、参加者から高い評価を得た。また、オンライン会議システム（Zoom）を併用した合同研究会の協議では本学院生からも積極的な参加があり、保育者養成の点からも有益であることが確認できた。

今年度の研究会開催においては、昨年度の反省を踏まえリモートでの参加者について参加可能分科会を指定するなど工夫することでコンパクトな開催を実現することができた。園児の個人情報保護や外部専門家への委託料の削減など、ハイブリッド開催の課題が解決できた。また、

本学幼児教育コースの教員から直接専門的な助言や指導を得られることは附属園の利点であり、教員の指導力・資質向上につながっている。幼児教育現場の最新の情報を得ることもでき、広い視野で保育者の専門性について考えることができることが優れた点である。

地域住民に対しては、園児や保護者が近隣の環境保護に関心をもつきっかけとなるよう積極的に地域団体の実施する活動にも参加するようにしている。また幼稚園教育についての専門的見識や実践事例、先端的な情報を広める地域の子育て支援や幼児教育振興に寄与する役割も意欲的に果たしている。

【改善を要する点】

幼児教育研究会においては、本園に求められているニーズに答えつつ、内容を充実させながら費用など運営面も考えたコンパクトな運営が実施された。今後は、研究幼稚園としての使命を果たした上での働き方改革を引き続き考えていきたい。コロナ禍以前に取り組もうとしていた、大学開催と園の開催の隔年で交代開催する計画の再開を目指していきたい。また今年度のハイブリッド開催での研究発表は大変好評であったので、来年度以降も形式は引き継ぎつつ、さらに充実した運営に向けて工夫を重ねていきたい。

全国附属校園が集う研究会や県主催の研究会等は、他所属の教員との交流や意見交換ができ、自らの実践を見直したり、新たな刺激を受けたりでき、教員の教育研究の意欲向上に役立った。今年度は対面形式も多く復活したが、リモート形式の利点もある。研修の機会の充実に向けて幅広く情報を集めると共に、職員への情報提供も続けていくようにする。

地域住民への貢献については、感染症対策の観点並びに入園選考を実施していることもあり、地域の多くの方を対象に園を開放することについては難しく、一定の条件を設けざるを得ないという課題は残る。その中でも可能な地域貢献について模索していく必要がある。

（３）評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、４段階評価中の「Ａ 十分達成されている」と判断する。

評価項目 5 教育環境整備

（１）観点ごとの分析

観点 5－1 設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備の状況

【観点到係る状況】

施設・設備の充実整備の状況

鳴門教育大学附属学校園授業支援・カメラシステムが導入された。園内に子どもの活動を録画できるカメラを設置し、保育や研究、大学の講義での活用を進めていく。ここ数年、幼稚園の改築予算を大学に要望しているが改築予算は獲得できていない。来年度予算にも幼稚園改築をあげており設置者が省庁に予算獲得に向けて交渉が始まっている。

また、現在の園舎は、昭和４４年に建築されたもので、老朽化が進んでおり大学からの附属学校への限られた予算の中で修繕を行っているが、保護者からの寄附である教育寄附金に頼っている部分が多く、警報スイッチ４カ所の設置など施設・設備、夢ランド（総合遊具）の修繕については、寄附金の活用で充実が図られている。安全な教育環境の整備や維持のためには欠かせないが、それを保持するためには寄附金等が欠かせない状況となっている。

【分析結果と根拠理由】

環境を通して行うことが基本の幼稚園教育では、施設・設備・遊具・用具等の整備を常に意識し、幼児が生活しやすいよりよい教育環境づくりに徹している。また、点検のシステムを確立させることで、職員の安全に対する意識を高め、潜在事故の危険性や修理・修繕を必要とする箇所を確実に見つけ出し、寄附金の活用も含め附属学校係や大学施設課による迅速な対応がなされた。本園の環境整備についてのアンケートの中でも、どちらでもないと回答された保護者の内容に「子どもたちが生活しやすい環境ではあるが、老朽化が心配」とある。能登半島地震がおき、南海トラフ地震が高い確率でおこると想定されている状況において、園舎の改築は早急に予算取りの上、着工する必要がある。大学の交渉に大きな期待を寄せつつ、園では、オープンスクール参加者による集計結果においては、94.2%が「よく整っている」というアンケート結果を保持していく。そのために、幼児にとってふさわしい教育環境の構成や環境整備を怠らないようにし、引き続き幼児の安全を最優先に点検や整備を続けていく。

別添資料 1-① 令和5年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果

観点5-2 みどり会（保護者会）との連携

【観点到係る状況】

教育環境の整備・充実には、本園のみどり会（保護者会）との連携が不可欠である。これまでコロナ禍で活動が滞っていたが、今年度は、ボランティア活動により環境整備のみならず、教育環境の充実にも大きく関わっている。

環境整備においては、令和5年10月14日（土）「かくれんぼ」を保護者会と連携し、実施した。園舎周辺の草抜き、暗渠の砂取り、保育室等の窓掃除、木々の剪定など環境の整備を行った。また、毎週水曜日の星組降園前には、園庭の草抜きを中心に保護者のボランティアで環境の整備を行っている。3月にもクリーンデイが予定されている。

教育環境の充実においては、保護者も園に入って活動することで子どもとかわる楽しさや意味、自分のもっている力を活かせる喜びを感じることを子育て支援としている。今年度は、おやつへのやでの配膳や手づくりおやつ、絵本の読み聞かせや絵本の修繕、人形劇講演、手づくりボランティアでのティッシュケース作成、研修への参加、駐車場のスムーズな運営、おんがくと友達など、教育環境の質に与える影響は非常に大きい。

さらに130周年行事や記念絵本出版企画など、みどり会をはじめ保護者の活動は非常に多岐にわたっている。これらの連携が、園の教育にとって有効なもの・状況となるよう連携を図りながら進めていく。

【分析結果と根拠理由】

環境整備後、自分たちが生活する園の環境を、職員や子ども達自身が改めて見直す意識が高まり、より良い環境を作っていくことができている。また、保護者の方たちの積極的に環境整備に関わり整えてくださった場所で、心地よく存分に遊んでいる幼児の姿が見られた。物を大事に扱っている姿もあり、園を大事にしていこうとする意識にも繋がっている。

教育環境の充実に係るボランティアについては、保育の中に入ることや子どもたちにとってモデルとなるような内容となっている。参加した保護者の声にもそれらが表れている（別添資料1-②令和5年度幼稚園評価アンケート結果報告書）。

今後も、保護者会と連携をしながら、より良い園環境作りを手がけていきたい。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

安全点検は複数体制をとるなどして、よく機能している。施設・設備の不備については、すぐに設置者との連携をとるようにし、教育環境を常に美しく整備している。

園の改築に関しても省庁にあげる順位としては重要性が高いと大学は認識しており、そのための資料作りや調査のために尽力をいただいている。

みどり会との連携は、今後も充実に向けていく。園の教育を理解していく過程もその中には大きな影響を与えるがよい方向に進んでいる。別添資料 1 - ②令和 5 年度幼稚園評価アンケート結果報告書においても、みどり会の活動には高評価が得られている。

【改善を要する点】

現在の園舎は、昭和 44 年に建築されたもので、接合部の雨漏り・モルタルの剥落やひび割れ、配管などの老朽化が目立つ。園舎全面改修を切望しているが、現在混然としている幼児教育行政の動向を見定めた幼児教育施設の建設のため、しばらくは部分補修でしのいでいく必要がある。また、緊急を要する箇所（廊下の天井や外壁など）に関しては、補修工事を依頼し補修を終えている。引き続き、園舎改築も含め、本学施設課の迅速な環境整備が不可欠である。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4 段階評価中の「 A 十分達成されている 」と判断する。

評価項目 6 教育実習・インターンシップ等

(1) 観点ごとの分析

観点 6 専門性や実践力を養う教育実習の実施状況

【観点到に係る状況】

今年度の教育実習の実施状況は、次のとおりである。

①ふれあい実習 9 月 12 日

学部 1 年生 5 名

目的：教育実習実践現場の様子を観察することにより、教職及び幼児理解を深める。子どもとのふれあいを通して、体験的に子どもの姿を学びとり子どもへの理解を深める。教職への意欲を高めるとともに、教職に向けての自己課題を明確にする。

②附属学校園観察実習 6 月 6 日・7 日

学部 3 年生 5 名

大学院幼児教育コース 2 年生 1 名

目的：附属幼稚園での保育参加を通して「保育の成立要因」の明確化を図る。幼児への関わり方を観察・体験したり、実習生の取り組みや附属教員の実習指導の様子を受けとめたりすることにより、教育実習への自己課題の明確化を図る。

③附属校実習オリエンテーション 7 月 19 日

学部 3 年生 5 名

大学院幼児教育コース 2 年生 1 名

④附属学校園実習 9月4日～9月29日

学部3年生5名

大学院幼児教育コース2年生1名

目的：学習指導、幼児、生徒指導、学級経営など、教育活動全般にわたっての実習体験を重ねることにより、「教師として具有すべき指導方法」を実践的に学ぶ。特に保育・授業における基本的指導技術を習得することが主たる目的である。

⑤教員インターンシップ 9月4日～9月15日

学部4年生（英語科教育コース）2名

目的：教職に就くことに向けて、実際に教育現場に入り実践することを通じて教師としての力量を形成するとともに、教職に対する理解を深める。地域と連携した学校教育の営みを理解する。これまでの実地教育の成果を生かした教育実践に取り組むとともに、新たな自己課題の明確化を図る。

⑥基礎インターンシップ 11月20日～11月27日のうち5日間

大学院幼児教育コース1年生1名

目的：子どもとの信頼関係を築き、保育実践力の育成を目指す。

⑦総合インターンシップⅠ 4月20日～5月26日のうち週2日ずつ

大学院子ども発達支援コース2年生3名

目的：新年度当初の幼稚園におけるフィールドワークやアドバイザー教員の取組を通じて、新入園児や進級児と信頼関係を築くためのカウンセリングマインドの習熟や学級経営能力の育成を目指す。

⑧総合インターンシップⅡ 10月18日～11月17日のうち週3日ずつ

大学院子ども発達支援コース2年生3名

目的：幼稚園で配属された学級におけるティーム・ティーチングとしての役割を中心として、アドバイザー教員から指示される様々な園務等も積極的にを行い、保育実践力における状況対応力、人間観・保育観の確立を目指す。

⑨教員体験実習 12月～3月のうち、週1回程度

学部4年生（体育科教育コース）1名

目的：指導教員の補助的な役割を果たしながら、学級経営の実際にふれ、体験的に学ぶことにより、今まで培ってきた教育実践力を確かめるとともに、学級経営・生徒指導等、教師としてのあり方について、幅広く学びとる。また、園内の様々な業務や現在の学校現場で生じている今日的課題に対する対処の仕方などを体験的に学ぶ。

⑩幼児教育実践フィールド研究Ⅰ

大学院幼児教育コース（遠隔教育プログラム）

目的：幼稚園において保育の参加観察や記録、ディスカッション等のフィールドワークをとおして、保育環境のあり方や子どもの遊びについて、管理職、ミドル、若手保育者など様々な立場から検討を行い、保育を客観的に考察する自身の力を深化させる。

⑪幼児教育実践フィールド研究Ⅱ

大学院幼児教育コース（遠隔教育プログラム）

目的：幼稚園において特に運動会や園外保育などの行事に参加観察を行い、記録やディスカッション等のフィールドワークをとおして、子どもの遊びについて、管理職、ミドル、若手保育者など様々な立場から検討を行い、行事等について客観的に考察する自身の力を深化させる。

⑫四国大学 教育実習 10月17日～10月31日

四国大学生生活科学部児童学科3年生2名

カリキュラム・マネジメント力を促す実習の工夫について

毎日、担任指導教員に教育実習録・保育案を提出し、週明けに一度、先週一週間の観察記録・週の指導記録・幼児の記録を提出する。提出に関しては、令和3年度から、ペーパーレス化やICT化を図るため、学習管理システム（Teams）を使用している。

当初は、指導計画立案に長時間を要していたが、少しずつ観点を押さえて整合性のある保育案を作成できるようになった。保育後は、その日の幼児の生活ぶりを記録し、保育を振り返るミーティングを深めた。遊びの中の教育的価値・活動内容や経過・先の発展見通し・環境構成・時間の配分・幼児の発達の実情・内面理解・友達関係・教育課程や月別指導計画との関連・ねらいや内容の妥当性など、自らの言動を振り返りながら、子どもの姿を通して、保育の基本姿勢や考え方を学んでいった。

また、評価については、大学から示された＜別添資料6－①＞の「主免教育実習評価ルーブリック」を用いて週ごとに自己評価を実施し、自分の課題が明確になっていった。

別添資料 6－① 主免教育実習「評価ルーブリック」（附属幼稚園）

【資料】 附属学校園実習 実地教育計画表

（○全体 ●学級・学年）

週	月／日	曜	行 事	実習内容	指 導 要 項	時 間	備 考
1	9月4日	月	午後保育日 教育実習開始 対面式 身体測定（4歳児）	観察参加	○講話①：教育実習の意義（杉山） ●9月の指導計画について ●第1週保育内容について	14:45～ 15:15 15:15～	・諸書類提出
	5日	火	入園希望者参観① 身体測定（3歳児） 合同研究会⑧	保育（一部） 保育参加	○講話②：本園の人権教育について（田中） ●領域研究・環境	15:45～ 16:15 16:15～	
	6日	水	午後保育日 みどり会理事会	保育（一部） 保育参加	○講話③：本園の教育課程・指導計画・日案、 幼児理解と幼児指導について（藤川） ○講話④：学級経営・学級事務（鍋山） ●領域研究・言葉	14:45～ 15:15 15:15～ 15:45	
	7日	木	模範保育（月組杉山） 視力検査（5歳児） 入園希望者参観②	観察参加	○模範保育説明・協議 ●領域研究・人間関係	13:30～ 15:30 15:30～	
	8日	金	午後保育日	保育（一部） 保育参加	○講話⑤：家庭との連携について（杉山） ○講話⑥：はとぼっぼのたいそう・親子ダンスについて（杉山） ●第2週保育内容について ●領域研究・健康	14:45～ 15:15 15:15～ 15:45 15:45～	
	9日	土					
	10日	日					
2	11日	月	午後保育日	保育（一日）	○親子ダンス案披露 ●領域研究・表現	15:45～ 16:15 16:15～	第1週記録 第2週計画提出
	12日	火	ふれあい実習（1年） 聴力検査（5歳児） 合同研究会⑨	保育（一日）	○講話⑦：保健・安全指導について（久米） ○安全点検（杉山・田中）	15:45～ 16:15 14:00～ 15:00	
	13日	水	午後保育日	保育（一日）	○講話⑧：行事教育－運動会・園外保育について（居上）	14:45～ 15:15	
	14日	木	入園希望者参観③	保育（一日）	○研究保育者決定・評価保育日程について（杉	15:00～	

		職員会議		山) ○親子ダンスビデオ撮影	15:30	
	15日	金	午後保育日 大学芋畑マルチはがし	保育(一日) ●第3週保育内容・研究保育・評価保育について ○大学芋畑マルチはがし(※終了後、大学で解散)	14:45～ 16:30 出発	
	16日	土				
	17日	日				
3	18日	月	敬老の日			
	19日	火	入園希望者参観④	保育(一日) ○園外保育準備	13:30～	第2週記録 第3週計画提出
	20日	水	午後保育日 学校安全の日 園外保育(芋掘り)	保育(部分) 行事参加 ○研究保育指導案作成	15:15～	
	21日	木	午後保育日 教育講演会(午後～)	保育(一日) ○研究保育指導案作成(印刷・環境準備)	14:45～	
	22日	金	午後保育日 (園外保育予備日) 実習生研究保育	研究保育 ○研究保育反省会 ●評価保育指導案作成 ●第4週保育内容について	15:00～ 16:00 16:00～	
	23日	土	秋分の日			
	24日	日				
4	25日	月	午後保育日	保育(一日) ●評価保育指導案作成(印刷・環境準備)	14:45～	第3週記録 第4週計画提出
	26日	火	実習生評価保育	評価保育① ●評価保育反省会	13:30～ 14:30	
	27日	水	午後保育日	保育(一日) ●評価保育指導案作成(印刷・環境準備)	14:45～	
	28日	木	実習生評価保育 入園希望者参観⑤	評価保育② ●評価保育反省会	13:30～ 14:30	
	29日	金	午後保育日 主免教育実習終了	保育参加 ○教育実習反省会 ○帳面の記入について(杉山)	15:00～ 16:00 16:15～	
	10月7日	土	運動会			
	10月8日	日	運動会予備日			

【分析結果と根拠理由】

幼稚園における幼児との直接的な関わりの過程をとおして、指導教員のもと教職の体験を積み、教員となるための実践上の基礎的な能力や態度を養うことを目的として実施した。

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、実習の内容がコロナ禍以前に戻った。その中で、実習生が考えた運動会の親子ダンスのYouTube配信など、コロナ禍で効果的だったICT活用を併用することができた。

指導案や保育記録の提出や、実習録の記入は、学習管理システム(Teams)の機能を使用した。実習生が学習管理システム(Teams)にアップロードした内容を、園の教員だけでなく大学の教員もリアルタイムで共有できるようにした。また、保育中にパソコンやタブレットで指導案を確認することは難しいので、担任教員や管理職、実習生分の指導案はプリントアウトし、紙媒体で確認をしたり共有をしたりする方法をとった。

実習生も、意欲的な態度で実習に取り組み、子どもに向き合う姿勢・教材研究・保育後の反省や記録等、一生懸命取り組むことができていた。

実習の質に伴って教職員の指導もより高い実践的能力や研究態度を目指した。子どもとともに生活をするという基本事項についての気づきや課題の明確化をそれぞれに図ることができた実習となった。

また、大学から担当教員が来園し、研究保育、評価保育等、実際の実習を見て指導して

いただく機会も設けている。大学側からの意見や質問もあったり、激励にもなったりと実習の充実に繋っている。

教育実習とは別に、大学の幼児教育コースとの自然プロジェクトのボランティアとして学生が保育参加する中で、より幼児理解の深まりや実践力の向上が図られ、実習にもよい影響が感じられる。

大学院生の基礎インターンシップは令和元年度、総合インターンシップは令和2年度から開始し、毎年課題を改善してきた。特に、担任教員とのカンファレンスの中で、学級経営の方針や幼児理解、環境構成の意図などについて細かく話し合い、院生自身が保育の意図を明確にしながら、幼児と関わるができるようになってきている。主免実習に近い指導内容を維持できるようになってきた。

保護者アンケートの自由記述に次のような記述があり、保護者からも多くの支持を得た実習であった。

別添資料 1－② 令和5年度幼稚園評価アンケート結果報告書（一部抜粋）

－ 教育実習生のお子様への関わりで気付いたことをあげてください －

子どもとの接し方や、関わり方を参観の時に観て、とてもやさしい実習生の先生たちが多くと感じました。子どもからも楽しかったことや教えてもらったことをたくさん話してくれます。

楽しく一緒に遊ぶことにフォーカスしすぎてもっと客観的に子どもを見るべきだと思うが、大きな問題ではない。

教育実習生とのお別れの日をいつも残念がっており、楽しく過ごしていました。年齢の近いお兄さん・お姉さんと一緒に過ごせたことで、保護者や先生方とはまた違った人間関係やコミュニケーション方法を学ぶことができたように思う。

実習生の先生が終了される時は、よく「鳴門教育大学に行って先生にまた会いたい」と言っておりました。短期間のうちで、子どもにそう思わせるほど密に接して下さりありがたいです。

毎回、娘は教育実習生との関わりを楽しみにしていました。先生とはまた違う接し方や考え方の実習生と過ごした時間はとても貴重だったと思います。

実習生が来ると、子どもはとても楽しそうでした。フルネームで名前を呼んで、「〇〇先生と今日こんなことをした」とうれしそうに報告してくれました。実習生とのかかわりは、とても貴重な機会だと思います。

今まで来て頂いた教育実習生の方は、どの方も優しくて息子は大好きでした。製作もとても上手に関わって頂いて、息子も満足するものを一緒に作って頂きました。今も大切に保管しています。

実習期間が短い中、子ども一人一人の名前を覚えていたり、その日にあったことを伝えて頂いて凄いいなと思いました。実習の準備や課題がある中で沢山の遊んで頂きありがとうございました。

教育実習生の先生が全力で遊んでくださるので、子どもは先生が来てくださるときを心も待ちにしている様子があります。実習期間終了時には、温かいお手紙を頂き、負担をおかけしているのではと思いながら拝読しております。

息子は教育実習生の先生と遊ぶのが好きでした。実習期間には、毎日のようにどんなことをして遊んだのか教えてくれました。「先生」という職業にも興味を持って憧れの存在だったと思います。

教育実習生の先生方が沢山関わって下さったことで、とても新鮮な園での体験をしたようでした。いつもと違う先生方と関わることで、他者とのコミュニケーションが広がったように思います。人との関係性を学ぶ上で大切なのは、多様な人が存在する環境の中で色々な価値観に触れる機会だと感じております。

子どもたちにとっては、担任の先生より、身近で、お兄さん、お姉さんのような存在がとても嬉しいのだなと感じました。来て下さる実習生の皆さんも一生懸命学ぼうとしている姿がとても印象的でした。

子ども達の目線に立って一緒に遊びきって下さっているなと感じておりました。〇〇先生はこんなこ

とができるや、〇〇先生がこんなことをしてくれたと憧れをもって話しておりました。運動会にも来ていただいて嬉しそうでした。

長期に渡り、子どもたちに向き合って下さって感謝しております。今後の研究や先生になられた際にも生かしていただければと思います。

子どもたちの様子をよく観察しながら、思い思いに上手に関わってくださっていました。

実習生の方が来られると子どもたちは「明日は～先生と～して遊ぶ！」と毎日楽しそうでした。降園時には、一日の出来事を一生懸命話して下さるのが、保護者としても嬉しかったです。

子どもの目線に立ち、子どもの思いを聞き、どうすればいいのか考えてくださり、将来の先生になる方たちだと思うと、非常に頼もしく感じました。

どの実習生もまじめで一生懸命保育してくださっていたように思います。子どもたちと全力で遊び関わってくれていたのも、実習生のお兄さんやお姉さんが大好きでした。運動会などの行事のお手伝いもありがたかったです。

学部生や院生と様々な年齢の実習生がいらっしゃって、先生からたくさん学んで、将来いい先生になると思うと、附属幼稚園の存在の大切さに気付かされます。毎回、熱心な方ばかりで嬉しいです。

子ども達も、「先生、先生！」と、とても親しみを持っていたと思います。教育者を目指してくれる若い人たちの存在は、親として大変ありがたく、尊敬いたします。その情熱がいつまでもあり続けることを願っています。お世話になり、ありがとうございました。

学校で勉強されていることをしっかり実践されているんだろうな、と子どもへの声かけを見ていて感じました。

別添資料 1－② 令和5年度幼稚園評価アンケート結果報告書

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

昨年度から、実習生の週ごとの実習内容自己評価に関して、附属小学校や附属中学校と評価方法を揃え、大学から示された「主免教育実習評価ルーブリック」を用いた。それによって、実習内容自己評価の内容が、教師としての資質・能力、評価する自分の姿・姿勢、具体的な場面などより具体的に考えられるようになった。

学習管理システム（Teams）を使用することで、大学教員との実習内容の共有を、より効果的に行うことができた。また、ICT と紙媒体を効果的に併用し、限られた実習（勤務）時間内で、教員や実習生が指導案の内容を共有しながら、日々の保育の反省を行うことができた。

ふれあい実習、観察実習の実施、ボランティアでの保育参加、大学での園外保育への参加など、実習生が教育実習に参加する前に、実際に園や子どもの様子を見ることで教育実習のスタートをスムーズにすることができている。受け入れる本園としても教育実習生一人一人の良さ等を事前に把握できることにより、実習期間中の指導・対応もしやすい。

学級配当は実習生の希望も考慮して配属した。そのことによって、教員の指導も細かくできた。

教育専門職にふさわしい実践的能力や研究態度を身に付けようと一生懸命実習に取り組む子どもとともに生きるという基本事項についての気付きや課題の明確化をそれぞれが図り、多くの成果が得られた実習となった。

基礎インターンシップ・総合インターンシップで、多くの成果を得ることができた。主免実習に近い指導内容を維持できるようになったことにより、園生活の中で院生自身が自ら考え、行動する姿が増え、そのことが教職員にとっても有益である。

大学の教員及び附属学校校園長で構成されている実地教育専門部会にて、プロジェクトとともに充実した教育実習の在り方について話し合い、大学と附属校園との連携を図っている。

【改善を要する点】

「子どもとともに生活をするという基本事項についての気付きや課題の明確化」に関して、実習主任や担任以外の教員が、園生活の様々な場面で、それぞれの意図で実習生へ指導をしていくことが必要である。今後は、実習開始前に実習主任から実習の方針を明確に伝え、一人一人の教員の意識改善を図る必要がある。

毎年の課題となっているが、保育指導案・資料作成と、保育環境の構成について、研究保育や評価保育の前は、指導案作成に時間を割いてしまう傾向にある。両方のバランスを考えながら、実習生が効率的に準備ができる状況をつくっていく必要がある。

（３）評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、４段階評価中の「Ａ 十分達成されている」と判断する。

Ⅲ 自己評価別添根拠資料一覧

評価項目	別添資料番号	資料名
1	別添１－① 別添１－② 別添１－③	令和５年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果 令和５年度幼稚園評価アンケート結果 生活プラン（２０１４.８.１発行）
2	別添２－① 別添２－②	ほけんだより２月号（２０２４.２.１発行） 令和５年度安全管理計画－危機管理マニュアル
4	別添１－③ 別添４－① 別添４－②	生活プラン（２０１４.８.１発行） 令和５年度参観者アンケートグラフ・まとめ 令和５年度幼児教育研究会アンケートグラフ・まとめ
5	別添１－①	令和５年度附属幼稚園オープンスクールアンケート集計結果
6	別添１－② 別添６－①	令和５年度幼稚園評価アンケート結果報告書 主免教育実習「評価ルーブリック」（附属幼稚園）